



第五十一号

## 対談 「米川文子×奥田雅楽之一（下）」

メルマガnoichi51号。先月に引き続きまして特集号、対談「米川文子×奥田雅楽之一」の後編をお届けします。米川文子先生におかれましては、この度、私どもの申し出をご快諾いただきまして、心から有難く、勿体ないことと存じました。先生のお話を伺えましたことは、私たちにとって生涯の宝物です。編集部一同、心から感謝を申し上げます。

先月号に続き、人間国宝米川文子先生と雅楽之一の対談の様子をお送りいたします。

米川文子先生の他、米川文清先生にもご同席いただきました。

対談「米川文子×奥田雅楽之一」後編スタートです！

## ◎海外での思い出

**奥田雅楽之一**（以下、奥田）…先日、私たち一族が戸隠神社で行った奉納演奏では、勿体なくも先生に《御山獅子》

を御献奏いただきました。実は、先生も戸隠に深いご縁が  
おありと伺っております。

**米川文子**（以下、文子）…あそこは、尼行者

の姫野公明先生という方がいらして、その方は戸隠の奥社と中社の中間にお住まいがあり、そう、公明院というお寺でした。その方と先代に深いご縁があつて、おそばに住まいを。公明院ってお寺の周りが高原の中で、御家元も唯是先生もお出でいただいたことがあり、その時のことは私もよく覚えています。

**奥田**…そうでしたか。定期的に通われておられたのですか？

**文子**…そこに三、四十年と毎年夏の間は住まいとして秋口になるまでいて、朝に晩に先代の弾かれる音を聞いていました。そうすると「三弦持つていらっしやい」ということもあつて、三弦をそばで弾かせていただいたものです。あそこでも、色々勉強させていただけました。

**奥田**…先生は「文子」のお名前を名乗る前は、ずっと「文勝之（ふみかつ）」であられました。

**文子**…文勝之というありがたい芸名をいただきましたのは、先代が姫野公明先生に「この操をなんとか、芸の道でもっともつと勉強させたい」と望んで、公明先生が神様の御前で「文勝之」と名前を授かりました。

**奥田**…先生は度々外国にいらっしやつてるご経歴があられますが、何か思い出とか、印象

に残っていることはありませんか？

**文子**…そうですね、キャンペラで音楽教育国際会議というタイトルで大きなお役を命ぜられたことで、初めて海外へ楽器と共に参りました。それは昭和六十三年のことでした。その時、本当にありがたいことに、唯是先生が駆けつけてくださったんですよ。

**奥田**…それは、唯是震一が突然現れたんですか？

**文子**…何かご自身は別のお仕事でいらして、駆けつけていただいたんですよ。本当にどれほど力になって頂けたことか、あの御恩は忘れません！

**奥田**…御先代の文子先生と一緒でしたか？

**文子**…初代は、その時伏せておりましたので家を出ることはほとんど無くなっておりました。戸隠で「たるちゃん」というマルチーズを抱っこしながら山道を歩いていて、その時に初代が転倒されてしまって、頭を強く打ってしばらくそこで救急車騒ぎになりました。しばらく東京に上京もされなくて大変な時でした。私は仕事や稽古があつたので、文志津さんが大先生のそばにいてくれました。

**奥田**…唯是震一 の作品で《輪音》という曲を先生にお弾きいただいたこと、私は今でも思い出します。

**文子**…貴重なことです。ありがとうございます。大事に弾き続けなければならぬ曲ですね。これからも皆に伝えていこうと思います。

**奥田**…ありがとうございます。先生のような方に弾いていただけることは、作曲者もさぞ嬉しいことだと思います。

## ◎米川文子襲名〜人間国宝へ

**奥田**…平成十二年に「米川文子襲名記念演奏会」を高梁で開催され、ご先代の文子先生のお名前を襲名されました。

**文子**…まさかという感じでした。その時はなかなか自信が持てず、もったいなくて決意できず、厳しいことだと思えました。

米川文子先生と雅楽之一







**奥田**…それはお名前を襲名されることについてですか？

**文子**…そうですね。文志津から二代目米川文子の襲名は会のために大事なことから。もう、一大決心でした。

「米川文子」の名前を私が継いで大丈夫かしらと思うことばかりで。私も気が弱く、内向的で引っ込んでしまう性格ですから、どうしようかと。ありがたいことは重々わかっていても、責任重大さからなかなか心に決められなくて。今思えば罰当たりだなと思うんですけどそれくらい重い決断でした。私はそのまま文勝之で通したいと思っておりませんでした。

**奥田**…ご先代が平成七年に亡くなられた時、先生はかけがえのない存在を亡くされたわけですけども、その時、大きな気持ちの変化がありましたか？

**文子**…しばらくポツンと。すっかり掴まっているものがないなつたんだと思いました。

**奥田**…先生は、私の世代では伺い知ることのできない名人、例えば富崎春抄先生であるとか、宮城道雄先生であるとか、何か特別その芸を見たり聞いたりということはありましたか？

**文子**…富崎春抄先生は特別なかったですね。宮城道雄先生は私が上京してしばらくして大先生に連れられて新しい洋服も着せていただいて中町のお宅に伺って、おそばに座らせていただいていた。一対一で何も弾けないのに《虫の武蔵野》の始めのところがどうやって弾いたのかわからないくらい無我夢中で弾きました。

**奥田**…《虫の武蔵野》のお箏のお稽古を、宮城道雄先生にしていたいたんですか？

**文子**…ほんの始めの出のところでですけどもそれは貴重なことでした。

**奥田**…米川琴翁（親敏）先生はいかがでしたか？

**文子**…おとなしい静かな叔父、親敏先生。

**奥田**…お稽古を受けられるようなことはなかったですか？

**文子**…そういう機会はいただけなかったです。おそばにおりましたことはありませんけど、習うことはなかったです。

**奥田**…初代米川敏子先生とは、従姉妹というご関係でありますか？

**文子**…そうですね。憧れて憧れて憧れて、敏子先生、敏子姉さん。簡単に敏子姉さんと言っていますが、立派で素晴らしい演奏家であり、箏曲家で、幅広く活躍されておりました。

**奥田**…二〇〇八年、平成二十年に箏曲の重要無形文化財、

人間国宝の御認定を受けられました。その時は祖母（中島靖子）と地方にいて、テレビでその古報を拝見したんですが、祖母は大変喜んでおりましたのを記憶しています。先生はご認定を受けられて、どういってお気持ちになられましたか？

**文子**…未だ今日に至っても、もったいなくて。私がこの芸でこのような国の宝と書く国宝でいいのか、どういう風にして行けばいいのかと常々思います。しっかりと箏曲・古典をもっとと極めて、しっかりと地についた古典が届くようにしていくことが、一番大切なことだと自分に言い聞かせております。

### ◎中島雅楽之都・靖子

**奥田**…箏曲や地歌三弦の道を志そうとする若い世代の人たちに、先生からお伝えしたいことは、ございますか？

**文子**…そうですね、古曲にいたっては何百年ですが、古曲ばかりではなく宮城道雄先生の曲も古曲と肩を揃えております。現代の作曲家の唯是先生、中島靖子先生、数知れないですけども、どの曲にもそのもの「心」が入っています。音だけではなく「心」が入っています。その「心」をおろそかにできないです。曲は音だけではないですから、私はどの曲を教える時にもそのことを申しており、自分にも言い聞かせております。

**奥田**…「心」。ありがとうございます。色々とお話を聞かせていただき、有り難いことでございます。私の曾祖父である中島雅楽之都のことをお聞きしたいと思います。先生から見るとどういう人でしたか？

**文子**…神様です。

**奥田**…いえいえ（笑）。人間のほうですが…。

**文子**…本当に！今、自然に出てきた言葉です。上野の文化会館の楽屋で雅楽之都先生のおそばに座らせていただいたことがあるんです。そこで貴重なお話をしていたいたこと

とは今でも光景が浮かんで忘れられません。雅楽之都先生は全国各支部にも力を入られましたね。誰も真似できない素晴らしい力で箏曲の発展に貢献されましたね。

**米川文清**（以下、文清）・・やはり色んな方に勉強していただけの楽譜の概念を作っていたのだご功績は、私どもにとってもありがたいお話で、本当はいけないんでしょけれど、直接先生にご指導いただけなくても楽譜でそれを勉強させていただけることが出来ることが、箏曲の普及となり、またご尽力の賜物であられると思います。

**文字**・・そう。そうですね。

**奥田**・・中島雅楽之都の長女である中島靖子とは同い年ということで。失礼な言い方になりますが、とても仲良しでいらつしやいますね。

**文字**・・本当に、ありがたいことです。

**奥田**・・実は今日、中島靖子から先生にメッセージをお預かりしております。短いですが読ませていただきます。

**文字**・・まあ！

**奥田**・・「米川先生とご一緒させていただいてきたことは、私にとつて幸せなことでございます」

**文字**・・私も幸せなことでございます。

**奥田**・・「先生は私と違って古曲がしつかり体に入っておられるご立派な方ですが、私たちはどういうわけか気持ち合うので、お陰様で私も幸せに勉強しています」というメッセージをもらってきました。

**文字**・・ありがたいことでございます。

**文清**・・当代の先生は芸一筋で大先生から厳しい指導を受けてきたので、芸事以外のお繋がりのお友達っていらつしやなくて、結局お付き合いのある方も芸の上でのお付き合いなんです、恐れ多いことに御家元とはもちろん芸の上でもですが、一人の人として先生と向き合ってくださいって本当に心から思ってくださいってありがたいと思います。

**文字**・・すべてにおいてです。色々と仲良しなのよ。

**奥田**・・きつと祖母も喜びます。それから、文清先生にもメッセージをお預かりしております。「私がそうであるように、家族が守るということは先生の気持ちの安定になります。それが文字先生と私がお互いにとても幸せなことです」と。

**文字**・・（拍手）

**全員**・・（拍手）

**文清**・・ありがとうございます。靖子先生はご立派なご家族がたくさんいらつしやるから。

**文字**・・お一人お一人の本当に素晴らしい力に先生はいつも囲まれて。私もこの子（文清先生）がおります。今来てくれているお弟子さんも家族、皆家族なんです。

**奥田**・・ありがとうございます。失礼なこともたくさんお聞きしてしまいましたが、本当にありがとうございます。

**文字**・・恐縮でございます。ありがとうございます。

**奥田**・・今後ともよろしくお願いいたします。文清先生もありがとうございます。

**文清**・・ありがとうございます。

### ◎お弟子さんから

**奥田**・・お弟子さんにも一言ずついただけますか？

**文字**・・長谷川さん、もう六十年になるの。今日来ててちょうどよかった。

**奥田**・・長谷川先生にとって、当代文字先生はどのような方ですか？

**長谷川**・・もう六十年になりますが、お稽古は厳しいですが、お優しい先生です。

**奥田**・・ご先代はいかがでしたか？

**長谷川**・・同じです。ワンちゃんがいたり、猫ちゃんがいたり。六十年あつという間に過ぎました。

**文字**・・彼女も、同じようにお弟子をたくさん養成しました。

た。

**長谷川**・・おかげさまで養成させていただきました。

**文字**・・星野さん。

**奥田**・・当代文字先生は、どのような先生ですか？

**星野**・・情が厚いですが、すごく芸には厳しいです。

**文字**・・そりゃ、私は誰にでもそうよ（笑）

**奥田**・・先生はお料理がお上手で私もお相伴に預かったことあるんですが、皆さまも、先生のお料理をいただくことがありますか？

**文清**・・お稽古が終わった後とか、今皆でご飯食べてるのよって連絡があります。

**星野**・・ここで、たくさん作ってくださいって。

**奥田**・・例えばどのようなものを？



文清…煮物とかお豆とか。先生「炊く」っておっしやるんですよね。

奥田…西の方ではそうかもしれないですね。先生は和食以外も？

文清…はい。スパゲッティをよく作ってくださいます。冬場はスパゲッティや焼きそばを、暑くなるとおそうめんを、私が帰ると作ってくださいっているんです。

奥田…スパゲッティですか！

文子…料理はする時と、しない時とあります。今はできたもので、おいしそうなのをいっぱい売ってるから(笑)

奥田…そうですね。いいですね。先生はお嫌いなものはおありますか？

文子…たいがいのは大丈夫ですけど、歳とってから、色々食べるのが難しくなりました。

奥田…西のご出身の方は納豆がお嫌いな方が多いですが、納豆はいかがですか？

文子…そういうえは上京してからすぐ、納豆買っていらっしやいと初めてお使いに行った時、誰か一緒についてきてくれたはずなんですけど、納豆っていうのが初めてで、買に行っても買いに行っても納豆が買えなくて、結局何も買わずに帰って、「納豆がなかった」と言いました(笑) 笑話です(笑)

全員…(笑)

文子…しばらく納豆は食べられなかったですね。

奥田…今は大丈夫ですか？

文子…今は努めて。

奥田…(笑)

### ◎おまけ

成ちゃん…(ハアハアハア、ガブー！)

文清…コレ、成ちゃん、ダメよ。嘔むんならうちのの人にしてください。

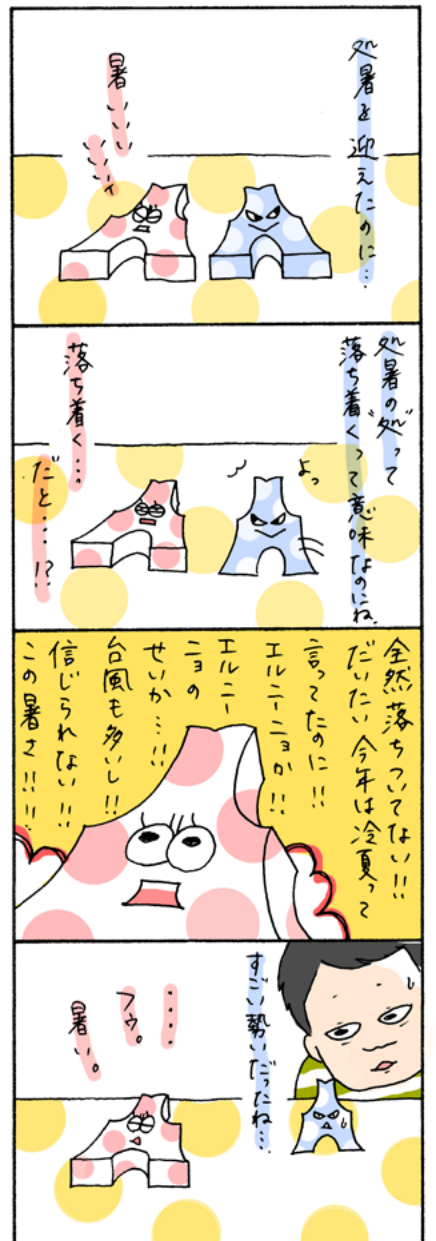


Illustration: morimoe

文子…あら。

文清…先生危ないですよ。

編集部…おいでー

文子…大丈夫ですか？

編集部…もう大丈夫です。

文子…この子、アレルギーの子で目の周りが赤くなるんです。お猿さんみたいに。(成ちゃんに) お猿ちゃんみたいよ、あなた(笑)

編集部…カメラが嫌いなようですね。

奥田…先生は猫ちゃんより、ワンちゃんの方が？

文子…両方好きです。

奥田…お散歩は？

文子…この子(成ちゃん)は外を歩けない子なので、家の中だけ。内弁慶でおります。

奥田…人見知りもなく。

文子…内弁慶で臆病でその反面、甘ちゃんです(笑)

この度は、厚かましく取材班四名で伺わせていただいたにも関わらず、勿体ないおもてなしを頂きました、文子先生、文清先生、双調会のお弟子様に心から御礼を申し上げます。有難うございました。

### ◎あとがき

人が作るものは美術でも音楽でも全て、自画像だと思っている。自画像であるが故に、どう隠しても人間性や個性が出てしまう。だから人間性は一生かけて磨くしかない。個性の方は隠しても抑えても出てしまう。それが本当の個性だと思っている。だから、昨今の教育のように、個性を伸ばそうなんて考える必要はない。自分で意識して出そうとする個性なんてレベルが低く、あまり意味がない。

自分を越えるものはなかなか作れない。さらに上を目指すとなると、意識のもっと奥、もしくは、どこかの世界とつながっているところ、無意識？を総動員するしかない。そのためには理性がじゃましないように気をつけるしかない。何かを作ったことのある人だったら、心の声が助けてくれたり、警告したくれたり、そんな経験があるはずだ。理性、たとえば納期とか、人にこう言われそうだから、人間界の事情でもって自分を納得させて押し切ってしまうとすると気持ちが悪い。理性はたいてい間違っている。心の声に従わないで前に進むと後悔することになる。理性の言葉は聞き流して、大事な声に耳を傾ければ、きつとうまく行くはずだ。

グラフィックデザイナー (http://www.1398.jp) みやはらたかお

